

# 久米田病院

住所	岸和田市尾生町 2 9 4 4	電話	0 7 2 -4 4 5 -3 5 4 5
病床数	4 9 4 床	病棟数	8 病棟

人権センターニュース No.84 より

## オンブズマン活動報告

平成 19 年 8 月 3 日訪問

平均在院日数 492 日（平成 19 年 8 月時点）

### 病院全体について

#### 病院側の説明

- (1)人権擁護委員会：設置している。1 回/月。意見箱は各病棟と外来に設置し、回収した意見は委員会で確認する。投書への返答はない。
- (2)行動制限最小化委員会：設置している。
- (3)担当制：入院時のしおりに書かれている。担当看護師、病棟担当の PSW がいる
- (4)診察：新館には診察室（2 室）があった。7、8、10 病棟では詰所内で診察。仕切り等はなかった。
- (5)服薬：看護師が病室をまわり、患者に手渡す。
- (6)外出：A 開放は院内外出、B 開放は院外外出も可。
- (7)金銭管理：管理費 100 円/日。原則として全員が病院に預ける。決まった曜日に必要な額を届け出ると、1 週間後に渡される。全ベッドサイドにある鍵付きロッカーは無料。有料ロッカーもあった。
- (8)食事の選択メニュー：なし。
- (9)入浴：週に 3 回。
- (10)面会：1、5 病棟には面会室があった。7、8、10 病棟は詰所内に衝立があり、その中が面会スペース(小さなテーブル 2 つと丸いす 4 つ)となっていた。病棟内では面会できない。喫茶で面会する家族もいる。7 病棟では「(面会室について)経営者も『つくりましょう』と言っている」との説明があった。面会時間は 10：00～11：30、13：00～16：30。
- (11)携帯電話：病棟内で使用できる。
- (12)院内売店：支払は全員が IC カードを使用し、病院に預けている金銭から引かれる。
- (13)喫茶・清掃：就労支援として制度外で行っている。参加は 10 名(グルホ 3 名、援護寮 1 名、自宅から 6 名)。院内に制度外の作業所(内職など)がある。
- (14)医療相談室：病棟担当 6 人(5 名は精神保健福祉士、1 名は社会福祉士) デイケア担当 7～8 人(精神保健福祉士は 3～4 人) 施設担当 4 人。2 病棟以外は 2 つの病棟や訪問看護と兼務。1 病棟には 3 名が関わっている。入院時に担当ワーカーの紹介がある。地域活動支援センターの運営委員会(1 回/月)や退院促進会議(貝塚市、岸和田市 1 回/月)等に参加している。退院にむけてプレデイケアがある。
- (15)OT：病状によって出て行こうとした患者がいたためと、入口は施錠されていた。160 名の患者が在籍し、週 1～4 回参加している。集団作業グループでは袋作りの内職(工賃「30 円×参加した回数」)。畑をする「元気クラブ」は話し合いで活動内容を決めてすすめている。訪問時は個人活動で塗り絵、編み物、紙細工などをしていた。

### 病棟について

【病室】新館は 4 人部屋が中心で、個室、2 人部屋もあった。ベッドごとにカーテン、ナースコールがあった。広くて明るかった。扉(中が見えないように障子風) ベッド、ロッカーは木目調。1 病棟はどの部屋にも使用料はなく、2.3.5.6 病棟は個室～3 人部屋で 1000～3000 円/日、4 人部屋については 2、3 病棟は 1000 円/日、5.6 病棟では 350 円/日の家具什器使用料がかかる。個室は中央配管(酸素等)で、浴室・トイレがあった。1 病棟では職員から「観察室として使用することが多い。ナースコールで詰所と会話できる」

との説明。隔離室として使用時には部屋代は無料。7病棟は3～4人部屋。入口や廊下側には透明の窓が並んでいて、部屋の奥まで見えた。8、10病棟は3人部屋が中心。1～2ヶ月前にベッドのまわりにカーテンが設置されたようだった。8病棟にのみ1部屋、畳敷きの病室があった。私物を管理する能力が乏しい患者がいるとのことで、押入れは施錠されていた。廊下との間は胸くらいの高さの、厚みのある仕切りがあるだけだった。

【電話】人権関連機関の番号の上に医療相談室に相談するようとの説明文と電話番号が記されていた。

【トイレ】新館にはナースコール、手すりがあった。各病棟の個室は足元20センチくらいがあいていて、鍵はドアの下の方にあった。病状によって閉じこもったりした場合、外から開けられるようとのこと。

【喫煙室】1病棟は明るく、緑が見え、換気も充分できていた。5病棟は喫煙室内にライターがあり、持ち出せないように小さい南京錠がついていた。7病棟は6人はゆったり過ごせる広さだった。灰皿は吸殻があふれそうだった。1.7.8.10病棟では詰所カウンターに鎖と鍵等で固定されたライターがあり、そこで火をつけてから喫煙室へ移動する。

### 1病棟（急性期治療病棟・閉鎖・男女）

**病院側の説明** 6割強が依存症。3ヶ月以内に別棟へ移る。平均年齢は37.5歳。開放処遇の患者はいない。少しでも早く隔離室から一般病室に移ってもらえるような関わりをすること、患者同士のトラブルについては中立的な関わりを心がけている。スタッフは月1回、院内で研修を行う。

**病棟の様子** 【隔離室】16室。扉の厚さは約15cmで約100kg。扉に向かって飛び蹴り等をする人もいて、ぶつかっても扉が破けて怪我をするというようなことのないようにしてあるとの説明があった。隔離室奥の窓の手前に透明の強化プラスチックの板の壁があり、その奥に職員用通路があった。通路にカレンダーがあった。時計は隔離室内からは見にくかった。室内は、清潔で臭いもなく、日差しも充分入る。床や壁はクッション性があり、洗面台は角がまるくなっていた。トイレは洋式で囲いはあった。センサー付きの手洗いとステンレス製の鏡があった。モニターカメラ、スピーカー兼マイクが設置されていた。スピーカー兼マイクは隔離室内の音（手をたたく、あるいは声）に反応し、詰所のナースコールが鳴ると「何かありましたか？」との返答をするとのこと。（患者の話「夕方や夜は何回か呼んでやっと来てくれた」職員の返答「夜勤帯が3名のため。詰所が空になっていると、返答できない時もある」）病院側によると「部屋に行って顔を見ながら話をする。詰所と隔離室が離れているため、他病院を参考にした。職員がすぐに来るという安心をもってもらうために、入室時に説明をする」とのこと。

個室を隔離室として使用することもあり、訪問時、個室に鍵をかけて使用していた。床頭台が廊下に出されていて、その横に大きく名前が書かれた袋が置かれ、中に私物が入っているのが見えた。

【デイルーム】テレビの音が大きかった。複数の患者と看護師が楽しそうに話していた。詰所は女性エリアと男性エリアを挟んで、それぞれのデイルームに面していた。木製カウンター、上部は透明のプラスチック。入口は施錠されていた。詰所内で診察が行なわれていた。詰所の窓を強くたたいて中の看護師を呼んでいる患者が2名いた。

### 5病棟（精神一般15：1・閉鎖・男性）

**病院側の説明** 急性期、救急受け入れ病棟という位置づけであるが、慢性期の患者も多く入院している。レホンカードは必要なときに手渡される。

**病棟の様子** 全体が清潔で、職員は若い人が多かった。デイルームは適度な採光で、圧迫感のないフロア、清潔感や落ち着きが感じられた。患者が職員と卓球をしたり、話をしていた。

【隔離室】詰所の奥にあった。明るく、トイレは壁で仕切られていた。モニターカメラがあった。

## 6 病棟 (精神一般15:1・閉鎖・男女)

**病院側の説明** 平均在院日数 8.5 年、在院期間 20 年以上が 6 名。薬の自己管理は 3 名。外出の行き先は院内の喫茶ひまわり、週 3 回の OT、年数回のコンサート、院内のカラオケくらい。7 名が「複数での院外外出可」、23 名が「複数での院内外出可」、30 名が閉鎖処遇で職員同伴で散歩をしている。週に 1 回、売店と喫茶店の費用として週に 500 円を手渡しする。3 年前から開放処遇に向けて努力している。

**病棟の様子** デイルームにはテレビ、時計、洗面台、給茶器等があった。各テーブルに花が飾られ、本棚があった。喫煙室は 5:30~21:30 まで使用できる。

## 7 病棟 (精神一般15:1・閉鎖・女性)

**病院側の説明** 半数以上の患者は在院期間が 5 年以上、20 年以上の患者も数名。開放処遇 2 名。閉鎖処遇の患者は週 1 回の売店、喫茶、外来へ歯科受診の外出がある。院内散歩、スーパー等へ外出することもある。医師や看護師から家族に働きかけている。

**病棟について** 【隔離室】詰所内に 1 室。3 年ほど前に改築をした。集音マイク、カメラがある。トイレには仕切りがあり、個室のようになっている。洗面、酸素吸引の設備がある。トイレ横の窓と扉の窓にはブラインドがあり、水洗は室内からもできる。

【浴室】プレハブ様の造り。職員の話「新しく作るための設計図はできている段階」

【デイルーム】詰所は小窓式。扉は施錠されていた。訪問時は盆踊りの練習、喫茶ひまわりへの外出、おやつ渡しが行なわれていた。テレビを見ている患者もいた。「さん、ベッドにパンツ出しっぱなしやないの」との職員の大きな声が響いてきた。

## 8、10 病棟 (精神一般 15:1・閉鎖・男性)

**病院側の説明** 慢性期の患者が中心。

**病棟の様子** 8、10 病棟はほぼ同じ構造。8 病棟の方が平均年齢が高く、車椅子がそこここに置かれており、横になっている患者が多かった。

【隔離室】詰所奥。8 病棟は室内で操作できる水洗ボタンがあり、10 病棟のトイレの水洗は室外で操作していた。隔離室前の廊下を隔てた窓が、吹き抜けの中庭に面していて明るかった。

【デイルーム】職員も混じり 12~13 人が盆踊りの練習をしていた。患者の名前がテーブルに貼ってあった。テレビがあり、壁にはカレンダー以外何も飾られていなかった。広い窓から外の景色が見えた。新聞雑誌類も見当たらなかった。「サンルーム」と名札のかかったコーナーは患者が出入り出来ず、紙おむつの山やプラスチックの収納箱が積み重ねてあった。

## 患者の声

**1 病棟** 「シーツ交換は週に 1 回。シーツをはずすのは患者自身が自分です、シーツをつけるのは病院側でしてくれる」「冷蔵庫が無いので、冷たいものが飲めない」「売店で買物はカードなので、入院してから 4 ヶ月の間現金を使っていない」「石鹸を設置して欲しい」「決め事が多い」「デイルームは落ち着く。面会はある。テレカはもっているのが安心」「1 週間ごとに日用品代金の明細書を手渡ししてくれるのでわかりやすい」「4 日ほど隔離室にいた。物が必要な時、パンパンと手をたたくと時間はかかるけれど対応はちゃんとあった。そのときもじっくりと先生が部屋にきて話を聞いてもらえた」「隔離室に 1 週間いた。マイクに向かって呼んでも来てくれない時は、ドアをドンドン叩く。何回か呼んだら来てくれる。主治医は毎朝、来てくれた」「カウンセリングは申し込んだらある」「入院している人で 6 ヶ月の人が多い。僕は『入院期間 - 未定』となっていて、退院日がわからないから、職場や家族にどう説明したらいいのか困っている。およそでいいから言ってほしい。3 年この病棟にいる人もいて、自分もそうなるのかと心配している」「主治医や職員に『退院日について聞くのは禁句』『退院について自分から口にすると余計に延期される』と先輩(患者)が

ら言われた。気になるけど、聞けない」「治療計画書？知らない。先生はゆっくりと週 1 回位、診察してくれる」「看護師はやさしい対応。退院計画はまだない。周りの人も面会に来てくれるので安心している。主治医は決まっている。先々の不安を聞いてもらえる」

**5 病棟**「任意入院だけれど、院内散歩が許可されていない」「希望時に診察してもらえ」

**6 病棟**「シャンプー、リンス、歯磨き粉、コーヒーなどが外で買うよりも高い」

**7 病棟**「タバコは毎週金曜日に看護者に頼んで、1 週間分買ってきてもらう」「ケースワーカーは病棟には来ない。何をしてくれる人なのかよくわからない」「喫茶ひまわり行くのは楽しみ」「この病棟は静かでのんびりしていて過ごしやすい。日にち薬という感じ」「OT が楽しみ」「用紙には 1~3 ヶ月と書いてあったが、主治医より、退院のめどが立たないと言われている(入院 1 ヶ月)」「職員は忙しそうで臨時受診の希望が伝えにくい」

**8 病棟**「診察は 2~3 週間に 1 度」「20 年入院している。退院の話はない。働くところがないから」「退院のコースは、(生活訓練施設)あかやまに行って、デイケアに行って、というのが定番」「退院は主治医とお母さんと看護長と、ケースワーカーで決める」「毎週、残高伝票はもらっている。使用明細はもらっていない」「私は入院して 12 年。40 年の人もある」「毎週水曜日に買物がある。全患者、1 日 100 円の管理料を要する病院のカードで支払っている」

**10 病棟**「主治医とケースワーカーに相談している」「時々けんかがある。不便なことはないが外に出られないのがちょっと……。運動不足になるので自分で体を動かすしかない。ラジオ体操とかそういった運動や活動は特にない」「売店には週 1 回行くが、1 日 100 円から 150 円と決められているし、タバコをすうからあまり間食とかしない。風呂は古く手すりもない浴槽」「希望をすれば診察してもらえ。特に身体的な問題があるとき。定期的な診察日などはない。大体月に 2 回くらい。診察時間は数分の時もあるし 1 時間くらいのこともあるので決まってない」「入院の時 3 ヶ月くらいで退院と言われた。家族は面会にこない。治療計画書はどこかにいった」

---

## 検討事項

### 【任意入院は開放処遇で】

全てが閉鎖病棟だった。前回の訪問時(平成 15 年 7 月)には「薬物依存症の治療のためには閉鎖処遇が原則」との説明があった。ただ、平成 18 年度精神保健福祉資料によると覚せい剤による精神及び行動の障害は 10%であり、入院患者全員が薬物依存症ではない。長期入院の多い病棟では、患者が外出することを積極的に勧めていきたいとの説明があった。(病院側の回答:各病棟にて個別開放処遇が出来る様取り組んでおり、少しずつ人数も増加しています。今後も努力を続けていくつもりであります。)

### 【隔離室のモニターについて】5 病棟

画面が他患者から丸見えになっていた。(病院側の回答:(略)他の患者から見えない様改善しました。)

### 【治療計画について】

複数の患者から治療計画や退院の目処について「説明を受けていない」「知りたい」との声があった。(病院側の回答:精神疾患という、目に見えない、また数値化しがたい疾患という特性上、また各個人で治り方にも個体差が非常に大きいという性質上、明確に治療のスケジュールや退院の目処について明らかにすることは非常に困難ではないかと思われます。)

### 【診察について】5 病棟

複数の患者から「入院当初は 1 週間に 1~数回、落ち着いてきたら月に 2~3 回、安定したら月に 1 回、調子がいい人は 2 ヶ月診察がないこともある」との声があった。(病院側の回答:個別の入院患者の病状に合わせて、各主治医は診療に当たっています。)

【トイレにサニタリーボックスを】7病棟

「使い終わった生理用品を詰所まで持っていき、看護師に捨ててもらわなければならない」との声があった。  
(病院側の回答：設置致しました。)

【トイレトペーパーの設置を】全ての病棟にトイレトペーパーがなかった。(病院側の回答：トイレトペーパーを多量に流してしまい、排水管を詰まらせる事故が頻発しています。)

【テレビのチャンネル権について】6病棟

6病棟で一部の患者にチャンネル権が固定しているようだった。(病院側の回答：現在は解消しています。病棟によっては(略)トラブルが起きないように話し合いの上、曜日毎にチャンネルを設定しています。)

【公衆電話の設置場所】7、8、10病棟

電話が詰所カウンター上にあり、囲いがなかった。(病院側の回答：検討中です。)

【隔離室について】8、10病棟

隔離室に鉄格子があり、鉄格子横にあるトイレには囲いがなかった。(病院側の回答：検討中です。)

【カーテンの設置を】7病棟

ベッドサイドのカーテンがなかった。(病院側の回答：予算が取れ次第実施する予定です。)

【金銭の自己管理を】

金銭は病院管理が原則だった。(病院側の回答：一部の方には自己管理をしていただいておりますが、大部分の方は病棟の中での金銭トラブルが起きやすく、病院側で管理せざるをえない状況です。)

【トイレと廊下を隔てる仕切り】8、10病棟

8、10病棟では廊下、洗面所とトイレの間に扉など、遮るものがなかった。(病院側の回答：検討中です。)

【空調管理について】

1病棟：患者の声「病室のエアコンが夜9時に切れると暑くてたまらない」、7病棟：近年度中に工事の予定があるとのことであったが、患者から「エアコンは病室にはなく廊下にあるため、室内は暑い」との声があった。(病院側の回答：検討中です。)

【診察室】7.8.10病棟では診察室がなく、詰所で診察が行われていた。(病院側の回答：検討中です。)

【社会資源の情報を】紙面の社会資源の情報がなく、PSWの支援の中で情報提供をするとのことであった。(病院側の回答：リーフレットを設置済です。)

人権センターが情報公開請求で入手した

H19 大阪府精神保健福祉関係資料より (久米田病院分)

476名の入院者のうち統合失調症群が263名(55%)、精神作用物質による精神及び行動障害82名(17%)、入院形態は任意入院168名(35%)、医療保護入院294名(62%)、措置入院13名(3%)、

在院期間は1年未満が140名(29%)、1年以上5年未満が139名(29%)、5年以上10年未満が72名(15%)、

10年以上20年未満が56名(12%)、20年以上が69名(14%) (H19.6.30時点)